

Old *and* New

古くて新しい。

京都久多の
山村生活用具

久多自治振興会

至 三国岳
岩屋不動尊(車両不可)
京都府立大学久多演習場
養魚場

Contents

久多の暮らし	4
Chapter 1 働く	6
Chapter 2 獲る／捕る・採る	10
Chapter 3 食べる	14
Chapter 4 身につける	18
Chapter 5 祈る	22

表紙：ヒキマワシ(P.18参照)
裏表紙：コンナシ(P.20参照)

その経年変化の美しさは、
現代の素材では生み出せない魅力があります。
古いけれど新しい――。
そんな久多の人々に
受け継がれてきた用具を
紹介します。



「久多の山村生活用具」は、
下の町にある、久多いき
いきセンター3階に収蔵展示
されています。収蔵棚に敷
かれたスノコは、久多周辺
で伐採された杉材を用い、
地元の木工所が製作。遮光
カーテンを設置するなど、
文化財の収蔵環境を整えて
います。

久多の山村生活用具収蔵展示

協力 上の町

岩淵源之進、澤崎イトエ、辻禮子
中の町
岡田眞津子、小南道子
下の町
足立ハツ、大江きみ子、小瀧忠雄
宮の町
河原康博、駒池重尚、常本治
久多いきいきセンター
中坊明正、足立詔代、梶村富子
京都市北部山間かがやき隊(久多)
田邊賢司

(敬称略)

撮影協力 小瀧忠雄

写真 駒池重尚(P.4-5 久多風景写真)

福持昌之(P.23 山の神拝礼、川地蔵写真)

山本剛史(表紙)

撮影 宮田清彦

撮影助手 池田雪乃、松瀬萌子

デザイン KOTO DESIGN INC.

山本剛史、三輪悠介

編集 佐藤和佳子

制作 京都芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター

伊達仁美、溝邊悠介、関野遊子

京都市文化市民局文化財保護課

福持昌之

至 広河原

北山友禅菊

龍宝寺

志古淵神社

自性寺

いきいきセンター

宮の町

下の町

至 八丁平(車両不可)

至 八丁平(車両不可)



久多には、重要無形民俗文化財「久多の花笠踊^{はながさおどり}」や、京都市登録無形民俗文化財「久多の山の神・お弓」、同「久多宮の町松上げ^{まつあげ}」など、よく知られた行事がある。しかし、このほかにも実に多くの行事があり、久多全体の行事、久多5か町それぞれの行事、各家の行事に分類できる。

全体の行事は、花笠踊やお弓のほか、8月10日の大般若経転読がある。久多には巻子本と折本2組の大般若経が伝わっており、15年ほど前までは全国的にも珍しい「巻子本による転読行事」が行われていた(現在は折本で実施)。この巻子本の大般若経は、京都市指定有形文化財となり、現在は大谷大学博物館に寄託されている。

町の行事の代表例は、松上げであろう。宮の町では、先端に籠(カサと呼ぶ)をつけた柱松を立て、松明を投げ上げて点火する。上の町、中の町、下の町では柱松ではなく、立ち木の枝に松明を投げたという(チャチャンコと呼ぶ)。現在は、立ち木が枯れたりしたため、その木があった付近の地上で松明を焚いている。また、各町では毎月1日に当番の家に集り、天照皇大神の軸をかけ、拝礼の後に御神酒をいただく「一日講^{ついたちこう}」が行われている。下の町のお講箱には、集金の帳簿のほか、構成員の名前と講加入年が書かれた箸袋が納められており、かつて共同飲食がおこなわれていたことがわかる。もっとも、近年は月初めの日曜に開催の場合や、神号軸の拝礼を省略している場合もあるが、各町の集会として各戸に配布物を渡したり、各種の集金をしたり、また地域に関する話し合いが持たれるなど、欠かせない地域活動となっている。

家の行事は地域外の者が見る機会は少ない。ただ、お盆の「川地蔵」(写真)は安曇川流域に共通のお盆の習俗として知られている。久多では、8月14日から15日にかけて、家の近くの川原に下り、スコップを使って小さな中州を作る。そこに川原の石を見つくりて岸から中州へ橋を架け、中州には6つの「お地蔵さん」を作る。翌15日の朝、供物を持って川地蔵にお参りし、十三仏念仏をあげる。また、適齢の男性は志古淵神社の神殿(コウドノと呼ぶ、神主役)を1年間務める。5月の着任の前には若狭湾に行き、海水に身を浸して浄め、その浜で石をいくつか拾う。この石は、神殿が月次の行事に出仕する際、近くの川で身を浄めるが、この石を川の上流に置くことで、塩垢離の効果が得られるというものである。

これらの年中行事に使用される用具は、いずれも久多の地域の特徴がみられ興味深い。多様かつ豊かな地域文化の証人として、次世代に伝えていきたい民具である。

年中行事と久多の民具

福持昌之
(京都市文化市民局文化財保護課)

カサ

[傘] No.208

神殿は、志古淵神社の祭祀の際には、白い浄衣姿で出仕し、長柄の傘を必ず携える。境内の諸社参拝の際は、肩にかけたまま拝礼する。

オビはかけたまま使用する。



宮の町の上げ松

[上松]

久多宮の町松上げに使用する上げ松。松割り木を使用するが、ジンと呼ばれる特に油分の多い部分を選んで用いる。

※写真は2023年に実際に使用されたもの

本誌は、2014年6月、2016年11月、2019年5月、2023年7月に行った聞き取り調査を元に編集した。

Old
and
New

京都久多の
山村生活用具

発行日 2023年10月29日

発行 久多自治振興会

会長 河原康博

〒520-0463 京都市左京区久多宮の町3番地

左京区役所久多出張所

Tel. 075-748-2020

